

2018年12月30日 VOL.41-52No.2200

2018年12月23日 VOL.41-51No.2199

2018年12月16日 VOL.41-50 No.2198

◎祈禱会12/12(水)ルカ1:46~53

渡邊師マグニフィカート(マリアの讃歌)

6世紀以降、キリスト教会はこのマリアの讃歌を愛し現代にまで至っています。マリアの讃歌は、神ご自身が如何に惜しみなく恵みを注いで下さるかで私たちの信仰の思いと重なります(49)。マリアは最初「私の」、「私に」と讃美するが後半は三人称となりその憐れみは代々に及ぶと歌いました。ここに、神は人間の価値観を覆す驚くべき内容が歌われている。①神は権力者を王位から引きずり降ろし、高ぶる者を低くされる。②富める者を追い返し、飢えたる者を養われる。マリアのような祝福を受け継ぐために、マリアの資質である、謙遜と飢え渴きの心をもつ者とさせていただこう！

2018年12月9日 VOL.41-49No.2197

◎祈禱会12/5(水)「教会生活Ⅱ-17」

頼子師 I ペテロ3:15

伝道の方法は？人生の波風の中にあつて、私自身の根底に、主を知り、主に出会い、罪赦され、日々主と共に生かされている喜びを持っていることでしょうか。そして私がクリスチャンであることを自然に知っていただくことです。もし知識においても人格においても自信がなくとも、その足りなさを認めながら光中を歩み続けることが秘訣です。またその方のために祈り、信頼関係を築き、備えることでしょうか(I ペテロ3:15)。私たちは、多くのことに柔軟に応えながら、その親切も助けも物も、その方にとっては一時的な満足であることを覚えながら、福音を伝えさせていただきましょう。

2018年12月2日 VOL.41-48 No.2196

◎祈禱会11/28(水)ピリピ2:5

渡邊師「キリストイエスの心で」

使徒16章でマケドニヤ人の要請で、ピリピ伝道が開始されました。ピリピは3人の興味深い回心者で始まります。裕福な紫布商人のルデヤ、奴隷で占人の女性、投獄のパウロの看守だった家族です。この人々は、人種的・社会的・精神的にかけ離れた者たちで、ピリピ教会では、少なからぬ緊張関係があったようです(4章)。パウロは彼らにキリストの心をもって仕え合うように、1つとなるようにと進めたのでした。今年のクリスマスは、頭で祝うより、手足の行動で楽しむより、キリストの心に感動して祝うクリスマスとなりますように願います。ピリピの信仰者のように。

2018年11月25日 VOL.41-47No.2195

◎祈禱会11/21(水)「教会生活Ⅱ-16」

頼子師マルコ16:15～16他

伝道の理由は？

私を愛して、福音を伝えてくれた方々が居られたので、私も、罪の中で滅んでいく方々に福音を伝えたいですし、主が愛しておられる方々だからです。主の願いであり、命令だからです。二千年間、この願いを忠実に実行し、従い続けてくださった方々が居られたので、私にも福音が届きました。愛する主の願いだからです。伝道の力は？ 宣教・伝道は、ペンテコステから始まりました。聖霊が臨むとき力を得ます。原動力は聖霊です。では、どのように伝道するのでしょうか？ 続く

2018年11月18日 VOL.41-46No.2194

◎祈禱会11/14(水)「豪雨を注ぐ御方」

渡邊師使徒2:16～18

ここはペテロの説教で、目前の不思議な光景に触れ「これは」(16)ヨエルが預言した聖霊の到来だと理解した。聖霊は一部の人だけに注がれるものではない。「注ぐ」とは、霧雨のようにではなく、にわか雨のようにですらなく、熱帯の豪雨のように、神が人々に惜しみなく注がれるとの約束でした。聖霊が注がれた時、この恵みの最終性(注がれたものはもう集められない)、普遍性(性別、年齢、階層に関係なく、あまねく人類のさまざまな層の人々に、幅広く分け与えられる)がある。私たちはこの時代に生きている。福音を力強く語る者となろう。

2018年11月11日 VOL.41-45No.2193

◎祈禱会11/7(水)「教会生活Ⅱ-15」

頼子師マルコ16:15～16、他

伝道とは、すべての造られた者に福音を宣べ伝えていくこと、すなわち、神の愛とその愛ゆえのキリストの十字架と復活をまだ知らない人々に伝えていくこと、その愛を踏みにじり自分勝手に歩んできた罪とその結果からの救いを伝えていくことです。また、悔い改めて福音を信じなさい(マルコ1:15)とあるように、真の悔い改めの経験まで導かれていくことです。過去の辛かった経験、大変な経験を、誰かの所為、環境の所為、生い立ちの所為に終わらせない、申し訳なさが深められ、十字架への感謝が増し加えられていくような経験にです。続く

2018年11月4日 VOL.41-44No.2192

◎祈禱会10/31(水)イザヤ28:6

渡邊師「石の上にもクリスチャン！」

この28章には、北イスラエル(1~13)と南ユダ(14~20)への審判が宣告されている。特に南は、北の苦境を見たが自分たちには、都(エルサレム)があり、正統的で真の民だと優越感を抱いていました。イザヤはその南にも災禍があと語られる。その様な中でも、①慌てふためかず②石(救い主)に立脚し③これに深い信頼(信仰)を寄せることが大切と語られる。オレオレ詐欺は、人を慌てさせて冷静な判断を狂わせて目的を達成させようと挑戦してくる。今年もあと2ヶ月、主イエス・キリストを土台として不動の姿勢を貫こう。

2018年10月28日 VOL.41-43No.2191

◎祈禱会10/24(水)「教会生活Ⅱ-14」

頼子師マルコ6:45、46他

教会は交わり、伝道するところでもある。イエスさまでさえ、父なる神との交わりの中で、その日の生きる力と必要な知恵と愛を豊かに頂いていた。その模に倣いたい。教会は、信仰の仲間のいる楽しい所である。とともに、罪赦された罪人の集まりであり交わりである。互いにゆるし合い、励まし合い、成長し合いたい。神に敵対されないよう、他者に向けている矛先を自らにも向け、へりくだって恵みを！(Iペテロ5:5)孤独(神との交わり)を大切にし、孤立からは守られよう。続く

2018年10月21日 VOL.41-42No.2190

◎祈禱会10/17(水)ヤコブ3:10

渡邊師「賛美とのろいが…」

ヤコブ書は「藁(わら)の書」と言われたが、霊的・信仰的な事柄を現実生活のレベルで、私たちに気付きを多く与えてくれる書ではないだろうか。ここで賛美することとのろいのことば、愚痴や非難などは相応しくないと語られた。愚痴とは「今となっては言ってもしかたのないことを言って嘆くこと」。またある人は「愚痴は繰り返すことによって記憶の中に深くとどまる。英単語を繰り返して記憶させるように。」とのことである。私たちは実践において、愚痴を賛美に切り変える必要がある。この切替のコツ、タイミング、弱さを主に知って助けていただこう。(ヨブ1:22参照)。

2018年10月14日 VOL.41-41No.2189

◎祈祷会10/10(水)「教会生活Ⅱ-13」

頼子師 I ペテロ4:11

奉仕の目的が「神があがめられるため」と記されている。奉仕によって感謝されること尊敬されることは決して悪いことではないが、目的でも動機でもないことを覚えたい。作曲家のバッハは自らの曲の最後に、人の心が神に向けられますように、神の栄光が現れますようにとの意味のサイン、S.D.G.をよく使ったそうだ。「イエス・キリストを通して」とあるが、聖霊による主の内住によって可能となっていく。この目的のために奉仕をしている者たちが同労者。同労者として、神と人への報告の大切さ、コミュニケーション能力の大切さを覚えながら、魂の救いと成長のため奉仕をしていきたい。

2018年10月7日 VOL.41-40No.2188

2018年9月30日 VOL.41-39No.2187

◎祈祷会9/26(水)ローマ1:17

渡邊師「信仰に始まり信仰に進む」

難解な箇所？神の福音とは「神の義」で、罪と失敗の贖いのこと。決して人間の業ではなし得ません。陸上のハードル選手のように、私たちは信仰でスタートし信仰で乗り越えて次のハードルに進む。それはリズムカルであるほど、心地よく楽しいものである。「信仰」と3回も出てきます。信仰とは神にお従いする心が発動されることです。最初のハードルが困難と見えても、私たちは動揺することなく信仰をもって乗り越えましょう。そのステップがリズムカルであればあるほど、私たちは信仰の深い祝福に向かっていくのですから感謝です。

2018年9月23日 VOL.41-38No.2186

◎祈祷会9/19(水)「教会生活Ⅱ-12」

頼子師 I ペテロ4:11

「ふさわしく奉仕しなさい」とあるがふさわしさとは、時が必要であり時だけが必要なわけでもないので難しい。ただ、立場の自覚と持ち場の自覚は必要だ。立場の自覚とは、私は今どういう立ち位置なのかとの自覚である。この自覚があると、心と頭を働かせるようになりふさわしくなっていく。持ち場の自覚とは、内面的なことに光を当てたい表現として用いた。その持ち場で仕えていく、満足のためでも比べるためでもなく、必要に応じていくのである。管理者(所有者ではなく)という自覚も奉仕への責任感が生まれ、ふさわしさが生まれてくる。

2018年9月16日 VOL.41-37No.2185

◎祈禱会9/12(水)「感謝して受け取る」

渡邊師 I テモテ4:3~5

その日に起こったことを皆、感謝することは、難しい現実だと感じます。新改訳第3版では「物」、新改訳2017では「もの」とあり、見えたり感じたりするよりもっと深くで感謝するニュアンスを覚えます。ここに感謝する秘訣が約束されています。「神の言葉と祈りによって」と方法が示されています(5)。当初は到底感謝できないと思えることも「祈り」と「みことば」の深い交わりによって厳しい課題をオブラートに包んで祈って飲み込む時、深い恵みとして消化させてくださり、大きな祝福と変えてくださるのです。

2018年9月9日 VOL.41-36No.2184

◎祈禱会9/5(水)「教会生活Ⅱ-11」

頼子師 I ペテロ4:11

教会は奉仕(SERVICE)をするところでもあります。最大の奉仕は礼拝(SERVICE)です。「奉仕するのであれば」心を愛を献げられます。時間を献げられます。労力を献げられます。献金、献品ができます。「神が備えてくださる力によって」肉の力ではない、神が備えてくださる体力、精神力、知力、霊力が確かにあります。子供は子供なりに、老齢の者は老齢の者なりに、備えられている力があります。神が備えてくださる力を信じ、少しの信仰を働かせて、奉仕させていただきましょう。

2018年9月2日 VOL.41-35No.2183

◎祈禱会8/29(水)イザヤ40:26

渡邊師「目をあげて高きを見よ！」

ここはイザヤ書後半の始め「慰めよ」(2)で始まり、バビロン捕囚と終末のイスラエルの民を回復させる神のメッセージである。先日の散歩で1羽だけ「カァ」でなく「オハヨ」と啼くカラスに驚き、鉄塔を見上げた。私たちの生活の視点は、どこになるのでしょうか。低い所は視野も狭くなり、イライラ、ブツブツ、クヨクヨしたりし易い。そのようなものに囲まれた時は、視線を高い所に、イエス様を覚える所に、十字架にと移らせていただこう。心の方向の転換をして、祈りと黙想によって、新しい神様の語りかけと励まし、希望をいただこう。

2018年8月26日 VOL.41-34No.2182

◎祈祷会8/22(水)「教会生活Ⅱ-10」

頼子師 I コリ11:23~26

「わたしを覚えて(記念して)これを行いなさい」との勧めに倣い、教会では聖餐式を執り行います。贖いの恵みを記憶するため、悔い改めと赦しを活ける信仰を持って行うためです。ぶどう液とパンは、実体と言うより、主の御血と御体の象徴として頂きます。礼拝の中で、按手礼を受けた正教師が秩序正しく執り行います。聖餐であり愛餐なので皆で行います。神さまとの関係、キリスト者同志の関係が問われる時でもあるからです。信仰と恵みによって救われている人が受けられます。教会員でない方はご遠慮を、と促される群もあります。

2018年8月19日 VOL.41-33No.2181

2018年8月12日 VOL.41-32No.2180

◎祈祷会8/8(水)「私の備えと神の備え」

渡邊師 I コリント2:9

最近、病院との関わりが多くありました。時間を割いては、健康の維持のために散歩に心しています。その際、様々な小道具を身につけて家を出ます。これらは全て道の途中で、何かがあるといけないからとの思いからです。しかしこのみ言葉を読む時、神は私たちに、目でも耳でも心でも今まで想像しなかったこと、想定をこえた素晴らしいことを準備してくださると約束されています。ですから、私たちも平和の福音の備え(エペソ6:15)をもって、この主の愛に応える歩みをさせていただきます。

2018年8月5日 VOL.41-31No.2179

◎祈祷会8/1(水)「教会生活Ⅱ-9」

頼子師 マタイ28:19

教会は主を礼拝する所であると共に、聖礼典を行う所である。この聖礼典のひとつが洗礼式である。洗礼は、主イエスへの従順な行為の最初の一步、スタートである。形式としては、浸礼、灌礼、滴礼などがあり、幼児洗礼、病床洗礼などもある。また洗礼は、信仰、新生を公けにする時、教会の一員になる時、教会に籍ができる時である。新生と洗礼が後先になる時もあるが、新生した人が洗礼に導かれる。もうひとつの聖礼典は、聖餐式である。続く

2018年7月29日 VOL.41-30No.2178

◎祈祷会7/25(水)「塩と光」

渡邊師マタイ5:13~14、16

参照(ジョン・ストット著)塩と光の二つは、イエス様の当時の家庭に於ける最も基本的な必需品である。塩は防腐と殺菌のため、光は日没後のランプとして。主は私たちクリスチャンに、この世への影響力の行使を4つの真理をもって語られた。①クリスチャンは、クリスチャンでない者と根本的に異なる存在である。②クリスチャンは、非キリスト教的な社会に切り込んでいく存在でなければいけない。③クリスチャンは、非キリスト教社会に影響を与えて変革することが出来る。④クリスチャンは、自分がクリスチャンであることの特質を保ち続けなければならない。

2018年7月22日 VOL.41-29No.2177

◎祈祷会7/18(水)「教会生活Ⅱ-8」

頼子師マタイ23:23、ルカ11:42

聖書は新約に生きる私たちにマタイを通し、対人的に、「はるかに重要なもの」として「正義、あわれみ、誠実」を、ルカを通しては対神的に、「正義、神への愛」を語っている。そして、おろそかにしてはいけないもの、当然の前提として什一を語っている。献げにくい課題(どこかでゼロ出発をすると、さっぱりすっきりやりやすくなる)、籍のある教会と通っている教会(育てていただいた教会と育てていただいている教会)の問題、家族への責任など色々ある。献金なので、献げるも献げなくも自由である。月謝だったら払わなければ催促され退会を迫られる。しかし献金は、自由意志をもって応答するもの、光に応答する世界のものである。

2018年7月15日 VOL.41-28No.2176

◎祈祷会7/11(水)「婦人との出会い」

渡邊師ヨハネ4:14、他

参照(ジョン・ストット著)ヨハネは「言葉は神であった」(1:1)と宣言、直後に「言葉は人となった」(1)と話を進めた。4章はこの人なるイエスが脆さと弱さを体験された物語。主はヤコブの井戸の側で炎天下、旅の疲れで休まれ、婦人に水を所望された。更に伝統に対する態度は、極めて革新的であった。当時の習慣では婦人への話しかけ、サマリヤ人との交際、結婚遍歴の婦人との会話等々。主はこの婦人の救いのために、社会的慣習を意図的に壊してまですべての救いに導かれました。私たちも周の人に慣習を越えた、革新的な愛の心で福音の業を進めよう。

2018年7月8日 VOL.41-27No.2175

◎祈祷会7/4(水)「教会生活Ⅱ-7」

頼子師マラキ3:10

(続き)もうひとつのキーワードは「試す」。この言葉は、良くも悪くも捕らえることのできるニュアンスの言葉。主が私たちに試される時(試練の時)は、この上もない喜びと思うよう勧められ、忍耐を完全に働かせることによって成熟した者となり、約束されたいのちの冠を受ける(ヤコブ1:2~4、12)。この万軍の主が私たちに「試してごらん」と言われる。私たちが試す時、天の窓からあふれる祝福を注ぐ、と約束され、注がれ続けてきた。サタンの一番の仕事は、主は本当にそう言ったのかと疑わせること、と語られた説教を振り返りつつ(続く)。

2018年7月1日 VOL.41-26No.2174

◎祈祷会6/27(水)「黙れ、静まれ！」

渡邊師マルコ4:37

私たちはこのような言葉を発することは出来ません。しかし主イエス様は、荒れ狂う海に向かって「黙れ、静まれ」と命じ、自然界をご支配なされるお方でした。この言葉が発せられた時に、極度の恐怖と死の不安におののいていた弟子たちの心は、見事に解放されたのでした。人生の様々な恐れに囲まれた時、私たちも権威者イエスを仰ぐことが出来るとは、なんと幸いなことでしょう。日々の歩みの中でも、このお方を間近に覚えて祈りを捧げる特権を用いさせていただきます。

2018年6月24日 VOL.41-25No.2173

2018年6月17日 VOL.41-24No.2172

◎祈祷会6/13(水)「教会生活Ⅱ-6」

頼子師マラキ3:8~9

「人は神のものを盗むことなどできるだろうか」と私も思った。がここのキーワードのひとつ「盗む」と言うことは、相手に迷惑をかけていること、と捕らえると領ける。この献げものによって、神の教会の土台が据えられ守られ、宣教の働きが前進し広げられていく、という神の働きに迷惑をかけない。またお互いの不公平さ、働き人を支えられない、という他者への迷惑からも守られる。什一は、月謝でもなく横並びでもなく、貧しさにも豊かさにも実に公平な献げものであると思う。続く

2018年6月10日 VOL.41-23No.2171

◎祈禱会6/6(水)「母の心で養育を」

渡邊師 I テサロニケ2:7~8

今週「JEA総会」に出席し、2023年のJCE7「日本伝道会議」は、東海地区が主体と決定しました。この聖書箇所は「育てる」と言うパウロの言葉が中心にあります。それは母にある心であり、真の養育の心と類似しています。①それは優しい心で、「幼児になりました」(欄外には優しさと解説)。養育の根底には親の優しさがあった。②命までも投げ出す心。命を削るほどの大犠牲を払う覚悟でした。③「愛する者」を育てる心、単なる我が子でなく「宝」の存在であったのです。教会の次世代教育と継承も、パウロと同様の育てる心で実践させていただきましょう。

2018年6月3日 VOL.41-22No.2170

◎祈禱会5/30(水)「教会生活Ⅱ-5」

頼子師創14:20、他

私たちは、第一聖日に、礼拝献金と共に、什一献金をささげます。献げ方の方法は色々ありますが、受け継がれてきた方法として当然のようにこの方法を受け入れています。方法と共に、この献げものの根拠として聖書を開きます。初めにこの言葉が登場するのは創世記14章です。(黙示録まで50数回記されています)キリストの型と言われているメルキゼデクがアブラムを祝福し、アブラムが彼に什一を献げています。ここに祝福と什一の関係が記されています。さらに祝福の根拠として引用されることの多い箇所が、マラキ3章8~10節です。キーワードは、盗むと試すでしょう。続く

2018年5月27日 VOL.41-21No.2169

◎祈禱会5/23(水)「神の無尽蔵の愛」

渡邊師哀歌3:17、21~23

哀歌は人の死を悼む詩(挽歌)。エレミヤは神殿が破壊され、街も建物も廃墟とされた中で預言者の奉仕をしました。祭壇も汚され、安息日も守れず、「光のない闇を歩く」思いでした(2:7、3:2)。しかしエレミヤの心に変化が見られます。それは自分や環境や現状を見て絶望するのではなく、神への待望の心から生まれたものでした。それは①主の恵み②主の哀れみ(愛)③主の真実の悟りでした。契約の神はこのことにおいて、必ず私たちに誠実であってくださるとの堅い信頼に裏打ちされた確信でした。

2018年5月20日 VOL.41-20No.2168

◎祈祷会5/16(水)「教会生活Ⅱ-4」

頼子師ローマ15:6

(続き)④はつらつと勇気をもって歌いなさい。半分死んだような、居眠り半分のような歌い方にならないよう。⑤しかし慎み深く。蛮声をはりあげ、自分が目立つことを欲し、その結果会衆から浮き上がり、全体の調和を壊してはならない。歌声をあわせメロディーがはっきり響くように。それは「成熟した霊性」が求められている。⑥良いテンポで⑦霊的に。要は、心の目を神に向け、意味に心を集中させ、心がサウンドに奪われることなく、神にささげられているか確かめよ。6節の「神をほめたたえます」の別訳は「神に栄光を帰します」となっている。

2018年5月13日 VOL.41-19No.2167

◎祈祷会5/9(水)「迎えて祝う神」

渡邊師ルカ15:20、23

放蕩息子を親であり神が出迎えた光景。①父(神)は「駆け寄って」息子を迎えた(20)。息子は父を悲しませ、財産をもらい父を無視し旅立ちました。しかし父は自分から息子と関わろうと日々待ち続けた。私たちは少々嫌なことや気に入らないことで心閉ざし、距離を置きがちです。神の愛はなんと積極的で前向きで暖かいもので驚く。②父(神)は「食べて祝おう」と誘った(23)。父親は弟息子が敗残兵のように惨めで帰って来た時、愚痴一つこぼさず怒ることもせず、何もなかったかのように食べて祝おうといいました。人を前向きにさせ再起させて生かすために、一緒に喜ぼうと大胆な誘いの声かけられたのでした。

2018年5月6日 VOL.41-18No.2166

2018年4月29日 VOL.41-17No.2165

◎祈祷会4/25(水)「教会生活Ⅱ-3」

頼子師ローマ15:6

聖日礼拝では、賛美がなされます。要は「心を一つにし、声を合わせて、神をほめたたえますように」(ローマ15:6)でしょうが、その内容と方法は、時代により、教会により、年齢層により様々です。最近の松阪教会週報の礼拝の心得には、簡単に「賛美は感謝の心をもって主をたたえつつ歌いましょう」とあります。ウェスレーが勧めた「讚美歌唱和の心得」というものもあります。①まず讚美歌の調べを覚えなさい。②楽譜に正確に歌いなさい③全員で歌いなさい。苦手であっても歌いなさい。祝福となります。続く

2018年4月22日 VOL.41-16No.2164

◎祈祷会4/18(水)「人生を組み立て直す」

渡邊師 I コリント15:10

パウロはこの書で「恵み」の語を多用した。恵みによって賢い建築家となる(3:10)とあり、自分の働きは神の恵みによるとも証した(15:10)。彼は努力家、勉強家、自信家、野心家、迫害者、パリサイ人であった。しかしその内実は自己矛盾に悩み、葛藤する日々であった。それが神の恵みという新しい角度から、自分を見直した時、今まで描いていた自分の自画像とは異なった自分が見えてきたのである。私たちも一方的に見ていた自分の足跡、記憶、心を恵みの角度から見つめ直し、人生を組み立て直して(再構築)見ようではないか。意外と違った自画像を描けるかも知れない。

2018年4月15日 VOL.41-15No.2163

◎祈祷会4/11(水)「教会生活Ⅱ-2」

頼子師マルコ12:42~44他

聖日礼拝では、献げもの(献金)をします。どの位するものなのかと迷ったり、どの位したらよいのか問われたり、問われたとき何と答えただろうかと考えてみたりする中、色々な出来事が思い出されてきた。日々の家庭礼拝での献げものを携えてこられるご家庭があった。生きる手立て、帰りの電車代もなく、一枚の下着だけというのが続くのも困りものでしょう。惜しむ心、新聖歌55~57の歌詞も浮かんできます。まとめると、信仰的態度の「スピリット」と、一週間歩んだ一日一日の「感謝」と、頂いたものを「お返しする心」と、残り物ではない「献身のあらわれ」でありたいです。続く

2018年4月8日 VOL.41-14No.2162

◎祈祷会4/4(水)1 ペテロ2:2

渡邊師「心の上書きに注意」

ある先生が群の資料があるPCの大切なデータを削除してしまいました。更に別のデータで上書きしてしまいました。こうなると素人ではなかなか復旧させることが困難です。私たちは、朝毎に聖書から「純粋な霊の乳」をいただきます。しかし時間が経つと、人の会話、おしゃべり、噂話、悪口などが耳と心に入って折角の朝の素晴らしい栄養が、上書きされてしまうのです。私たちはこのようなことにも心して、純粋な信仰の素晴らしさがこの世的な言葉で覆い隠されてしまわないようにしよう。主を見上げた信頼の一日を送らせていただきましょう。

2018年4月1日 VOL.41-13No.2161

2018年3月25日 VOL.41-12No.2160

2018年3月18日 VOL.41-11No.2159

◎祈禱会3/14(水)ヨハネ4:24

頼子師「教会生活Ⅱ-1」

教会は主を礼拝するところです。創り主の前に頭を垂れるとき、私たちは尊大だった自分の心に気付くことがあります、感謝が溢れ出てくること、悔い改めの祈りが湧いてくることもあり、聖霊による疲れの癒しを覚えるときもあります。神への賛美と感謝と、信仰の応答と、より豊かに正しく神を知らせて頂くために、私たちは賛美のとき、祈りのとき、みことばのとき、献げもののときを持ちます。礼拝の中で占める「みことばの時」が長い流れの群の中に属していますが。続く

2018年3月11日 VOL.41-10No.2158

◎祈禱会3/7(水)「相互に Respect」

渡邊師ローマ12:10

パウロはローマの人々に「互いに愛し合い、尊敬をもって…」と語った。「尊敬」の語は聖書に15回出てくる。冬季オリンピックで金を獲得のスケート選手が韓国選手に「今でもあなたを尊敬している…」と言ったという。「尊敬」とは「Lookupto」で、見上げるから来ていたり、「Respect」の語から、もう一度見直してみる、距離を置いてみる、などの意味です。違った別の角度から、一度見ただけにとどまらずもう一度見直して尊敬するお互いとなろう。パウロはローマの仲間たちを、このような器へと奨励したのでした。

2018年3月4日 VOL.41-09No.2157

◎祈禱会2/28(水)「教会生活Ⅰ-4」

頼子師黙示22:16

また、家族(兄弟姉妹)なのだから、との思いのスキにも注意を払いたいものです。さて、教会を指すとき、地域的(Local)教会と世界的(General 宇宙的)教会があります。前者は、コリントにある、ガラテヤにある、松阪にある、というように定まった場所に存在する教会を指します。後者は、救われたすべてのクリスチャンが含まれる、宇宙大の教会を指します。お隣にはひょっとして、アフリカのクリスチャンが居られ、皆で救い主をほめたたえている新天新地の光景に結びつきます。私たちは地域的、宇的教会の一員にされたのです。

2018年2月25日 VOL.41-08No.2156

◎祈禱会2/21(水)マルコ9:29

渡辺師「この種のものとは？」

単純に読むとお祈りにも色々種類があり、手を抜かずに祈れと受けとめ兼ねない。しかし主の意図は「癒しを可能にするほどの霊的な力は、祈りによってのみ生まれる」と言うことだった。換言すれば「どうして追い出せなかったのですかなどと首をかしげている場合ではない。祈らなければ乗り越えられないとの現実に気付き、祈りに本腰を入れよ」とのことであった。このような思いで祈る時、霊的な力ある信仰者となり、大小の相違なく主に信頼する祈りの器とされるのです。

2018年2月18日 VOL.41-07No.2155

◎祈禱会2/14(水)「教会生活 I-3」

頼子師エペ2:19、ガラ6:10

そして、教会とは、神の家族であり、信仰の家族です。神を信頼する家族であり、信仰を励まし合う家族です。様々な年令と立場と職業の不思議な家族ですが、家族なので愛し合い、助け合い、励まし合い、語り合い、祈り合い、たとえ喧嘩をする時があっても、許し合い受け入れ合います。また、個々人の成長が期待される家族です。乳児幼児のまま、乳児幼児のみでは家族は成り立ちませんから。社会の中にある信仰の家族であるということも心したいことです。続く

2018年2月11日 VOL.41-06No.2154

◎祈禱会2/7(水) I コリ10:31

渡辺師「神の栄光に紐付けを！」

この御言葉を実際に行動するとき、戸惑いを感じます。現代は速さ、便利さ、豊かさ、簡便さ、幸福など夢中で追求する世界と言ってよいでしょう。これは決して悪いことではありません。憲法でも、健康で文化的な最低限度の生活をするとか保障されている。ただその幸福と豊かさの追求が、日々の生活で「神の栄光」と紐付けされていないことが問題なのです。私たちの生活をズームインしても、神様の栄光のためだと領ける、生ける信仰の器になる様に私たちは招かれているのです。

2018年2月4日 VOL.41-05No.2153

◎祈禱会1/31(水)「教会生活 I-2」

頼子師エペソ1:22~23

教会とは、聖霊によって召し出された者たちの集まりであるとともに、キリストをかしらとするキリストのからだです。聖書を通して、かしらであるキリストが私たちに何を命じ、何を期待しておられるか知ることは大切です。またからだとして、ある人は目、ある人は手、ある人は足であるとともに、ある時は目、ある時は手、ある時は足と、場所や場面によってお互いの働きを調整することも大切です。
続く

2018年1月28日 VOL.41-04No.2152

◎祈禱会1/24(水)ヨハネ8:31、32

渡邊師「真理による自由とは」

「真理はあなた方を自由にします」(32)とある。束縛から私たちを解放するものは真理しかない。逆に真理でないものがどんなに繕っても不自由(束縛)を生むのみです。自由とはみ言葉に留まり(31)、「真理の御霊」(14:17、15:26、16:13)に導かれることです。誤解、勘違い、怒り、憎しみ、苦々しい思いに誘われそうになる時、ここ(みことばと御霊と主イエス)に避難する秘訣を、祈りと信仰をもって会得しましょう。そこにこそ求める真の自由があるのでありますから。

2018年1月21日 VOL.41-03No.2151

◎祈禱会1/17(水)「教会生活 I」

頼子師 I ペテロ2:9、他

生活とは、「生きながらえること」と辞書に記してありました。ならば、教会生活とは、信仰者として生きながらえること、と共に教会が生きながらえることの両面があると思わされます。教会とは？聖霊によって召し出された者たちの集まりです。旧約では、会衆と訳される語で表現され、新約では、エクレシア(ギリシャ語)という語で、111回も使われているそうです。この世から召し出され、やみから光へ招かれた者たちの集まりです(続く)。

2018年1月14日 VOL.41-02No.2150

◎祈禱会1/10(水)詩篇1:2

渡邊師「昼も夜も四六時中！」

この詩篇1編は、詩篇全体の基調をなし、神を仰ぎ信じる者とそうでない者の生き方を描いている。ユニークな建造物で世界的にも有名な建築家の安藤忠雄氏が、どうしてこの様な発想が生まれてくるんですかとインタビューをうけた時、彼は「寝ても覚めても起きている間、四六時中そのことを考え続けているのです」と応えたと言うことです。順調な先の見える「昼」の時、人生の闇の困難な「夜」の時も、私たちはみ言葉をしっかりと頼りにし、信頼を置いて歩む者とさせていただきましょう。この1年がそのようでありますように。

2018年1月7日 VOL.41-01No.2149

◎年末感謝合同組会12/31(日)

渡邊師 I ペテロ2:11「魂の挑戦者」

かつて若いペテロはイエスの前で大失敗し、自分の本当の弱さを痛感した。彼は晩年に「たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」と書き送りました。スポーツなども相手の弱点を攻めて勝つことが多い。サタンは私たちの弱さを知り、攻撃してくる。目的は「たましい」へのダメージで、躍起になって挑んでくる。現れは健康、経済、人生の不安などかも知れないが、最終目的は私たちの救われた魂の平安と恵みを損なおうとの挑戦である。1年の守りを感謝し、新年も主とともに歩ませてください。